

2015秋の企業訪問実施結果について

【 企業（団体・金融機関）訪問記録 】

平成27年9月から11月にかけて、商工労働部職員による企業訪問調査を行った。

（主な調査項目）

- ①現在及び半年後の景況感
- ②為替の影響
- ③設備投資計画の有無
- ④東九州自動車道開通後の状況
- ⑤雇用人員状況及び今後の雇用見直し状況
- ⑥高齢者雇用の状況

平成27年11月

商工労働部

I 概 観

現在の景況感は横ばい。円安基調を背景とした輸出やインバウンドの増加による好影響と、原材料費の値上がりによる悪影響が混在しているほか、関連する大企業の業績により景況感が分かれている。

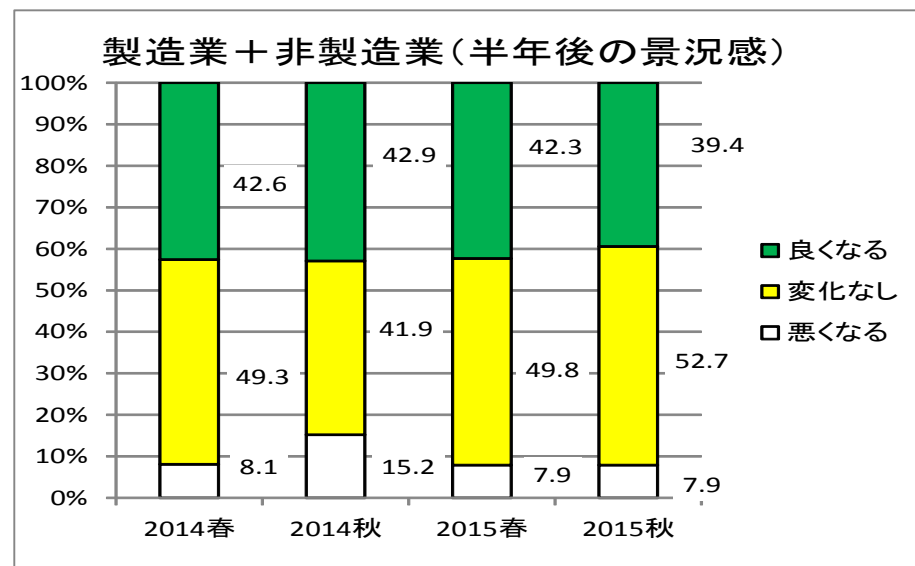
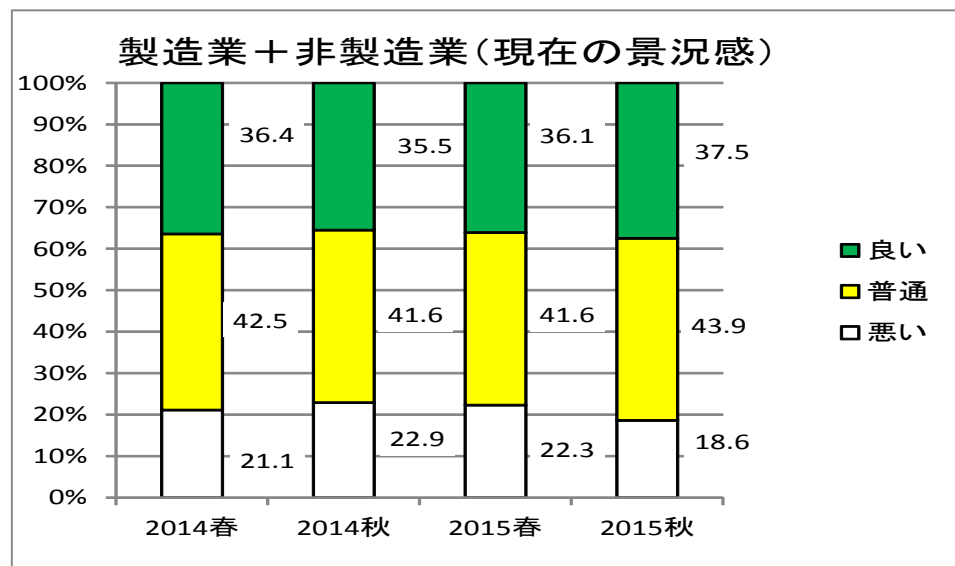
企業訪問時の各社の景況感

製造業＋ 非製造業	景況(現在) (%)、ポイント			景況(半年後) (%)、ポイント		
	良い	普通	悪い	良くなる	変化なし	悪くなる
2015秋	37.5	43.9	18.6	39.4	52.7	7.9
2015春	36.1	41.6	22.3	42.3	49.8	7.9
秋－春	1.4	2.3	▲ 3.7	▲ 2.9	2.9	0.0

○景況感はほぼ横ばいである。春の調査時と比較して、『良い』と回答した企業が1.4ポイント増加し、『悪い』は3.7ポイント減少している。

○半年後の景況感は、『良くなる』と回答した企業の割合が2.9ポイント減少し、『悪くなる』と回答した企業の割合に変化はなかった。

○工業製品の輸出増やインバウンドへの増加と、原材料費の値上がりという円安の正と負の影響が混在しているほか、人口減少による需要減少や労働力不足といった構造的な要因の影響も考えられる。



2015秋の企業訪問 集計表（業種別） その1

業 種	景況感	訪問数	現在の景況判断						半年後の景況判断			為替の影響		
			良い	悪い	普通	D. I			良くなる	悪くなる	変化なし	あり	今後あり	なし
						今回	前回	差						
①製造業	→	202	79	38	85	20	18	2	88	14	98	59	14	120
繊維	→	4	0	2	2	△ 50	△ 60	10	1	0	3	3	0	1
木材・木製品	→	6	3	1	2	33	△ 22	55	3	1	2	0	0	6
紙・パルプ	→	3	2	0	1	67	50	17	2	0	1	1	0	2
化学・石油	→	12	4	4	4	0	△ 18	18	4	1	6	2	1	7
窯業・土石	→	10	1	6	3	△ 50	0	△ 50	4	2	4	1	3	6
鋼鉄・非鉄金属	→	6	4	2	0	34	29	5	1	0	4	2	2	2
食品加工	→	59	24	7	28	29	19	10	35	0	24	23	2	29
一般機械	→	9	5	1	3	45	17	28	3	2	4	3	2	4
電気機械	→	30	14	5	11	30	26	4	10	6	14	6	2	20
金属製品	→	19	10	3	6	37	5	32	10	1	8	5	2	12
造船	→	5	1	1	3	0	23	△ 23	1	0	4	4	0	1
輸送機械(自動車)	→	21	3	4	14	△ 5	30	△ 35	5	1	15	4	0	17
医療医薬品	→	8	4	1	3	37	28	9	4	0	4	2	0	6
その他	→	10	4	1	5	30	50	△ 20	5	0	5	3	0	7
②非製造業	→	163	58	30	75	18	9	9	51	14	88	31	1	108
土木・建設	→	19	7	4	8	16	4	12	6	1	12	3	0	14
卸・小売	→	38	10	13	15	△ 8	△ 8	0	13	4	20	9	0	23
運輸	→	8	2	2	4	0	△ 12	12	1	0	6	1	0	5
通信・情報	→	43	15	3	25	28	27	1	13	4	24	4	1	35
対事業所サービス	→	14	6	3	5	22	3	19	5	2	6	4	0	9
対個人サービス	→	15	1	4	10	△ 20	△ 4	△ 16	3	1	11	2	0	10
飲食・宿泊	→	16	11	1	4	63	25	38	7	1	4	5	0	6
リサイクル	→	2	1	0	1	50	50	0	2	0	0	1	0	1
その他	→	8	5	0	3	63	30	33	1	1	5	2	0	5
合計(①+②)	→	365	137	68	160	19	14	5	139	28	186	90	15	228
(2015春)		(414)	(149)	(92)	(172)	(14)	(12)	(2)	(172)	(32)	(202)	(143)	(10)	(250)
金融機関		29												
商工団体		0												
商店街		0												
各種団体・大学		0												
労働組合		22												
合 計		416	137	68	160	-	-	-	139	28	186	90	15	228

※合計欄はそれぞれの項目に無回答があるため、訪問数合計とは一致しない。

※D. I (Diffusion Index) : 景気について「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた数値。

2015秋の企業訪問 集計表（業種別） その2

業 種	訪問数	設備投資計画			東九州自動車開通後の状況		
		あり	なし	今後 検討	ビジネス にプラス	ビジネス にマイナ ス	どちらと もいえ ない
①製造業	202	93	71	34	60	2	135
繊維	4	2	2	0	0	0	4
木材・木製品	6	3	3	0	2	0	4
紙・パルプ	3	2	0	1	1	0	2
化学・石油	12	6	3	2	1	0	9
窯業・土石	10	2	5	3	5	0	5
鋼鉄・非鉄金属	6	2	2	2	1	0	4
食品加工	59	27	23	8	22	2	34
一般機械	9	3	5	1	6	0	3
電気機械	30	16	9	5	9	0	21
金属製品	19	9	6	3	5	0	13
造船	5	4	1	0	0	0	5
輸送機械(自動車)	21	9	7	5	4	0	17
医療医薬品	8	5	0	2	2	0	6
その他	10	3	5	2	2	0	8
②非製造業	163	50	82	18	48	0	99
土木・建設	19	5	11	3	9	0	10
卸・小売	38	14	14	8	12	0	23
運輸	8	2	4	1	3	0	4
通信・情報	43	10	29	1	10	0	30
対事業所サービス	14	3	9	1	2	0	12
対個人サービス	15	6	7	2	5	0	8
飲食・宿泊	16	5	5	1	3	0	7
リサイクル	2	2	0	0	2	0	0
その他	8	3	3	1	2	0	5
合計(①+②)	365	143	153	52	108	2	234
(2015春)	(414)	(166)	(197)	(45)	(121)	(13)	(280)
金融機関	29						
商工団体	0						
商店街	0						
各種団体・大学	0						
労働組合	22						
合 計	416	143	153	52	108	2	234

※合計欄はそれぞれの項目に無回答があるため、訪問数合計とは一致しない。

2015秋の企業訪問 集計表（業種別） その3

業 種	訪問数	雇用人員状況			今後の雇用見直し予定					高齢者雇用		
		過剰	不足	過不足なし	あり				なし	既雇用	未雇用	今後雇用したい
					採用	削減	正規・非正規見直し	その他				
①製造業	202	9	109	80	99	4	2	5	87	86	91	13
繊維	4	1	2	1	3	0	0	0	1	3	1	0
木材・木製品	6	0	4	2	3	0	0	0	3	1	3	2
紙・パルプ	3	0	2	1	3	0	0	0	0	2	1	0
化学・石油	12	1	4	5	4	0	0	0	6	4	6	0
窯業・土石	10	0	3	6	2	0	0	0	8	3	7	0
鋼鉄・非鉄金属	6	0	2	4	2	0	0	1	3	2	1	1
食品加工	59	0	32	27	25	2	1	2	27	37	15	4
一般機械	9	1	4	3	2	0	0	0	7	3	5	0
電気機械	30	2	21	7	17	0	0	1	12	9	19	1
金属製品	19	2	8	9	11	1	0	0	7	5	11	1
造船	5	0	4	1	2	0	0	0	3	5	0	0
輸送機械(自動車)	21	1	14	6	15	1	1	1	3	2	14	4
医療医薬品	8	0	4	4	6	0	0	0	2	3	5	0
その他	10	1	5	4	4	0	0	0	5	7	3	0
②非製造業	163	3	89	62	90	3	0	1	57	61	82	12
土木・建設	19	0	10	9	9	0	0	0	10	12	6	1
卸・小売	38	0	21	17	22	2	0	1	13	16	16	6
運輸	8	0	4	4	3	0	0	0	5	4	4	0
通信・情報	43	2	24	13	30	0	0	0	8	8	28	4
対事業所サービス	14	1	8	5	7	1	0	0	6	5	8	1
対個人サービス	15	0	7	8	6	0	0	0	8	8	7	0
飲食・宿泊	16	0	6	5	7	0	0	0	4	6	6	0
リサイクル	2	0	2	0	1	0	0	0	1	1	1	0
その他	8	0	7	1	5	0	0	0	2	1	6	0
合計(①+②) (2015春)	365 (414)	12 (13)	198 (200)	142 (192)	189 (213)	7 (5)	2 (3)	6 (6)	144 (179)	147 (←)	173 (←)	25 (←)
金融機関	29											
商工団体	0											
商店街	0											
各種団体・大学	0											
労働組合	22											
合 計	416	12	198	142	189	7	2	6	144	147	173	25

※合計欄はそれぞれの項目に無回答があるため、訪問数合計とは一致しない。

Ⅱ 業種別の状況について

ⅰ 製造業

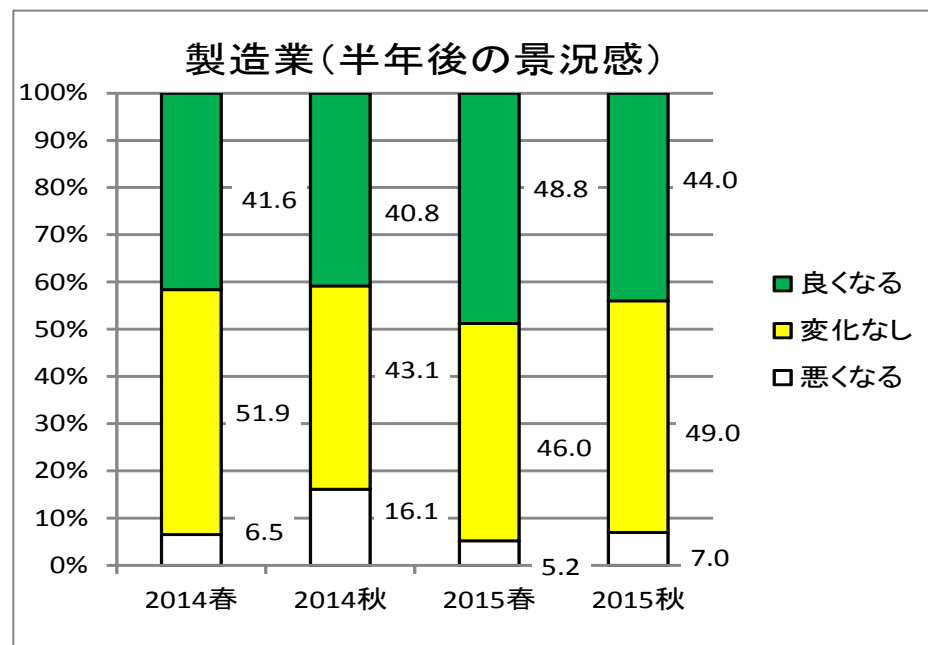
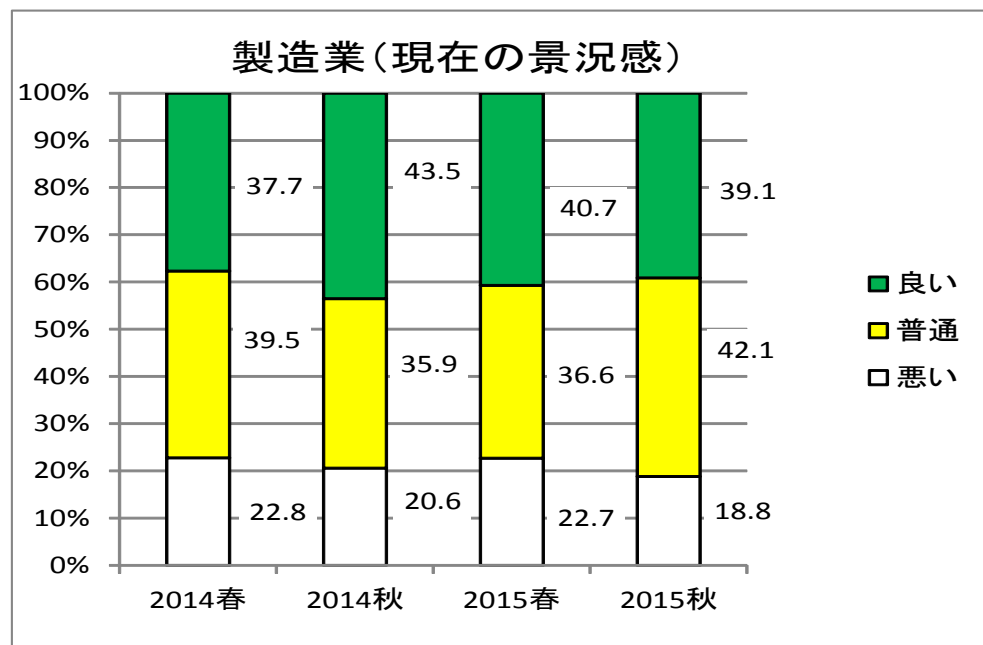
訪問時の各社の景況感

製造業	景況(現在) (%、ポイント)			景況(半年後) (%、ポイント)		
	良い	普通	悪い	良くなる	変化なし	悪くなる
2015秋	39.1	42.1	18.8	44.0	49.0	7.0
2015春	40.7	36.6	22.7	48.8	46.0	5.2
秋-春	▲ 1.6	5.5	▲ 3.9	▲ 4.8	3.0	1.8

○景況感はほぼ横ばいである。春の調査時と比較して、秋は『良い』と回答した企業の割合が1.6ポイント減少したが、『悪い』も3.9ポイント減少している。

○業種別にみると「食品加工」や「金属製品」の景況感は改善する一方、「電気機械」の景況感は横ばい、「輸送機械（自動車）」のD. Iはマイナスに転じるなど、ばらつきが見られる。

○半年後の景況感は、『良くなる』と回答した企業の割合が依然として多いものの、そのポイントは4.8減少しており、『悪くなる』と回答した企業も1.8ポイント増加している。



(主な業種の傾向について)

1 食品加工 (59社)

景況感はプラスである。円安による原料高の影響は依然としてあるものの、観光客需要の増加や新商品の販路開拓などにより、景況感の改善傾向が続いている。

- 大分駅ビルオープン、デスティネーションキャンペーンの影響により売り上げ好調。
- 9月末で売上前年比が全商品で100%を超えた。特に冷凍食品が好調。
- 関東や関西で売り上げが伸びているが、消費全体が落ちているので今後については楽観できない。
- 大分県特産の海産物関連新商品を開発し、その販売が拡大し始めている。
- 前年度並み確保が精一杯。卸先が酒屋からコンビニ・スーパーに移行しているが、売り場としては減少傾向。

2 電気機械【半導体等】(30社)

景況感は横ばいである(D、Iはプラス)。映像機器の売上げは依然低調な模様。半導体関連企業からは景況がよいという声が聞かれる一方で、新分野への事業展開を模索する動きも続いている。

- 中国、米国、日本など全体的によくはない。映像機器は関税自体が低くTPPの影響は小さい。
- 大手電機メーカーの主要協力工場となっており、忙しい状況は続いているが、先々は設備投資が細っていくと予想。
- 半導体事業を縮小させ、機械・電気の設計技術、各種装置の組立技術を生かした受注生産に方向転換中。

3 輸送機械【自動車】(21社)

景況感はマイナスである(D、Iもマイナスに転じている)。円安がプラスに働いている側面はあるものの、大手自動車メーカーの生産調整などの影響により、やや停滞感が見られる状況である。

- 大手自動車メーカーが生産調整しており、取引数量が落ちている。
- 売上は3、4年前の倍になっているが、利益幅は激減している。
- 自動車関連部品は減少傾向にあるので、新規事業に取り組んでいく。
- 円安による大手自動車メーカーの国内回帰により、プラスの影響がある。

ii 非製造業

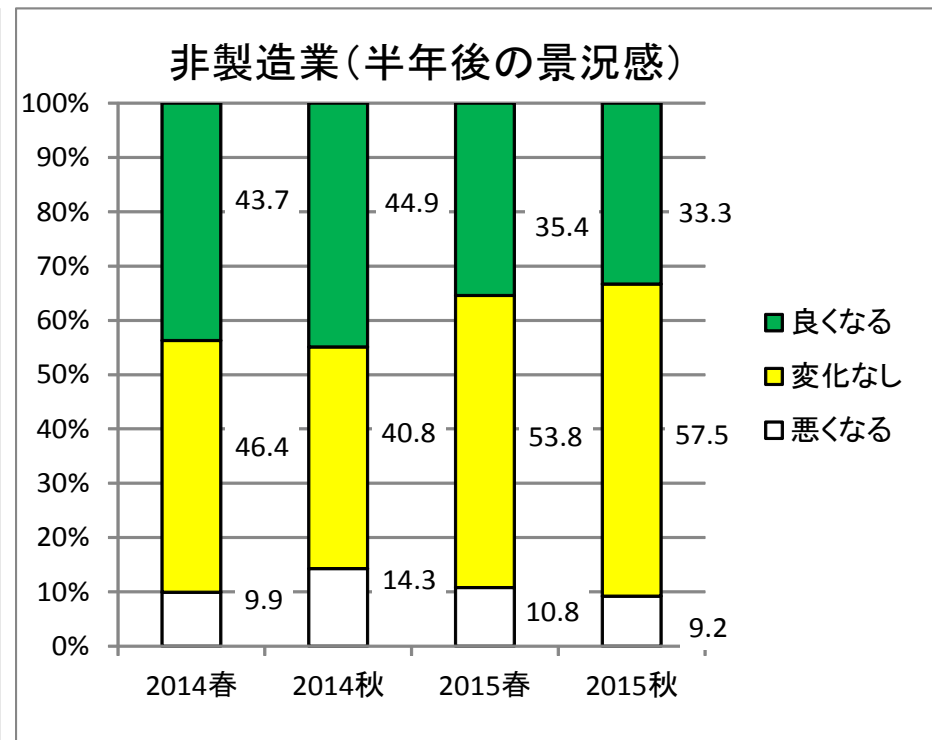
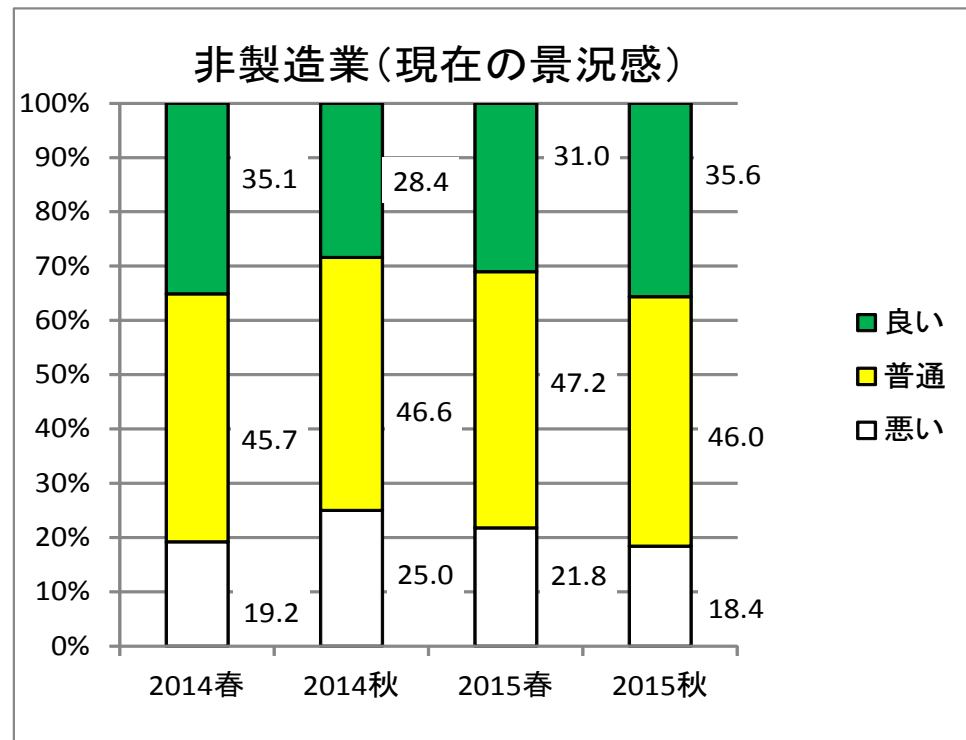
訪問時の各社の景況感

非製造業	景況(現在) (%、ポイント)			景況(半年後) (%、ポイント)		
	良い	普通	悪い	良くなる	変化なし	悪くなる
2015秋	35.6	46.0	18.4	33.3	57.5	9.2
2015春	31.0	47.2	21.8	35.4	53.8	10.8
秋-春	4.6	▲ 1.2	▲ 3.4	▲ 2.1	3.7	▲ 1.6


○景況感はやや改善している。春の調査時と比較して、秋は『良い』と回答した企業の割合が4.6ポイント増加し、『悪い』は3.4ポイント減少している。

○業種別に見て、景況感が悪化したのは「対個人サービス」のみであり、その他のすべての業種は横ばい若しくは改善である。(卸・小売のD、Iはマイナスのまま)

○半年後の景況感は、『良くなる』と『変化なし』が依然90%以上を占めているが、『良くなる』のポイントはやや減少している。




(主な業種の傾向について)

1 土木・建設 (19社) 


景況感はプラスになっている。公共工事の受注減の声が聞かれる一方で、マンション関連などの民間工事は堅調な模様である。

- 公共工事は減少しているが、大分市内での中古物件やリフォームの需要が多い。
- 太陽光発電工事の受注で好況であったが、系統接続問題で一段落した状況。

2 卸・小売 (38社) 

景況感は横ばいである (D. I はマイナス)。観光地ではインバウンドによる好影響の声も聞かれる。

- 消費マインドは上向いており、特に食品に関しては高い。衣料品は横ばい。
- DC中では観光客数にあまり変化がなかったが、9月以降はシルバーウィーク効果等で持ち直した。免税売上は九州内で一番よかった。
- 人口減少により売上は逡減。顧客は高齢者が多いのでコミュニケーションをとりながら販売していることが強み。

3 通信・情報 (43社) 

景況感は横ばいである (D. I はプラス)。県外受注やマイナンバー制度等の影響もあり、引き続き需要の多い状況が続いている。

- 取引、売上ともに横ばいだがよい状態が続いている。
- ソフトウェア開発の需要はあるが、技術者不足で対応できないケースが発生している。

4 飲食・宿泊 (16社) 

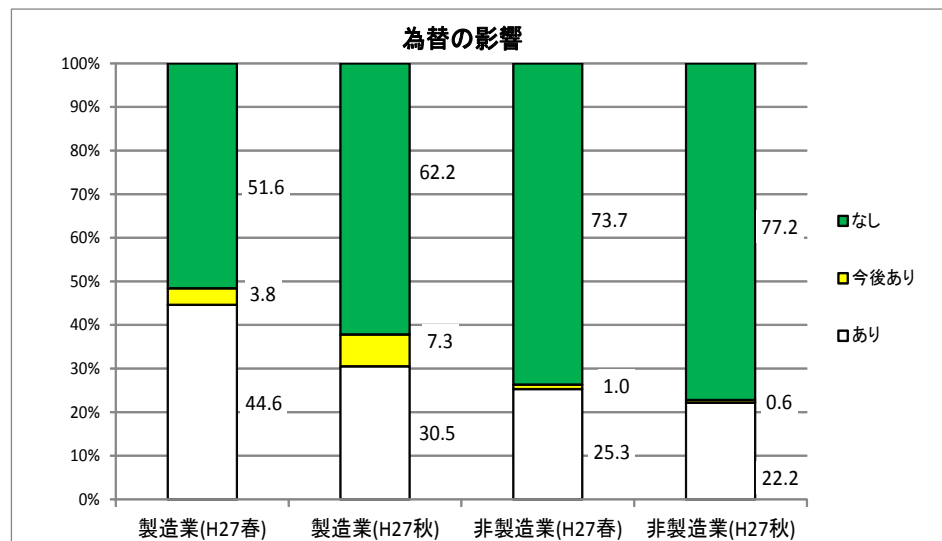
景況感はプラスである。観光地では宿泊、飲食ともにインバウンドの好影響が聞かれる。

- 由布院の旅館はインバウンドの増加で好調。インバウンドが閑散期を埋めてくれている。別府の飲食店も同じく好調。
- 県立美術館やシルバウィークの影響もあり宿泊部門は売上増。下半期は婚礼部門の予約状況から考えるとよくない見通し。

Ⅲ 為替の影響について

為替の影響

	あり	今後あり	なし
製造業(H27春)	44.6	3.8	51.6
製造業(H27秋)	30.5	7.3	62.2
非製造業(H27春)	25.3	1.0	73.7
非製造業(H27秋)	22.2	0.6	77.2



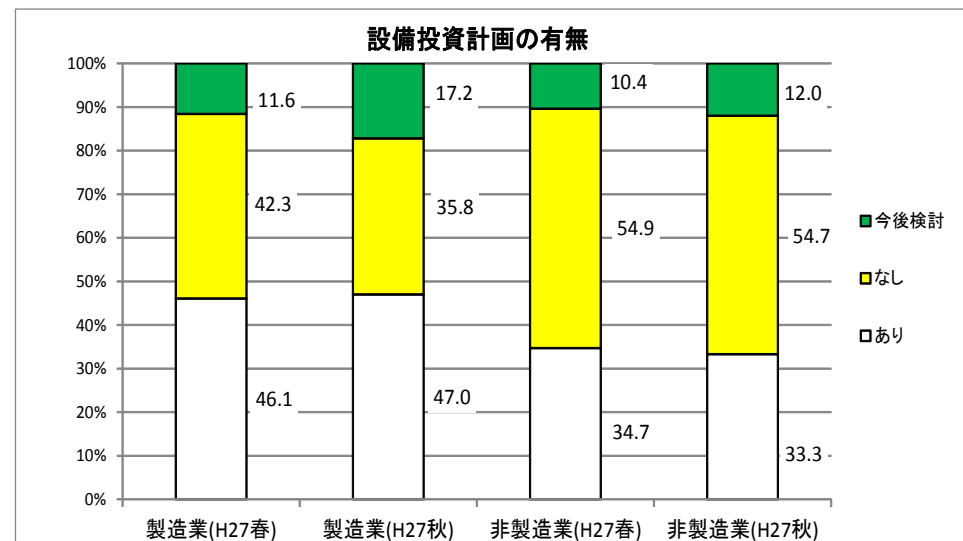
○製造業は、『あり』と回答した割合が3割程度に減少。

○円安基調が続いており、好影響としては「輸出増や製造業の国内需要増」や「インバウンドによる消費増」など、悪影響としては、「原材料の値上がり」などの声が聞かれた。

Ⅳ 設備投資計画について

設備投資計画

	あり	なし	今後検討
製造業(H27春)	46.1	42.3	11.6
製造業(H27秋)	47.0	35.8	17.2
非製造業(H27春)	34.7	54.9	10.4
非製造業(H27秋)	33.3	54.7	12.0



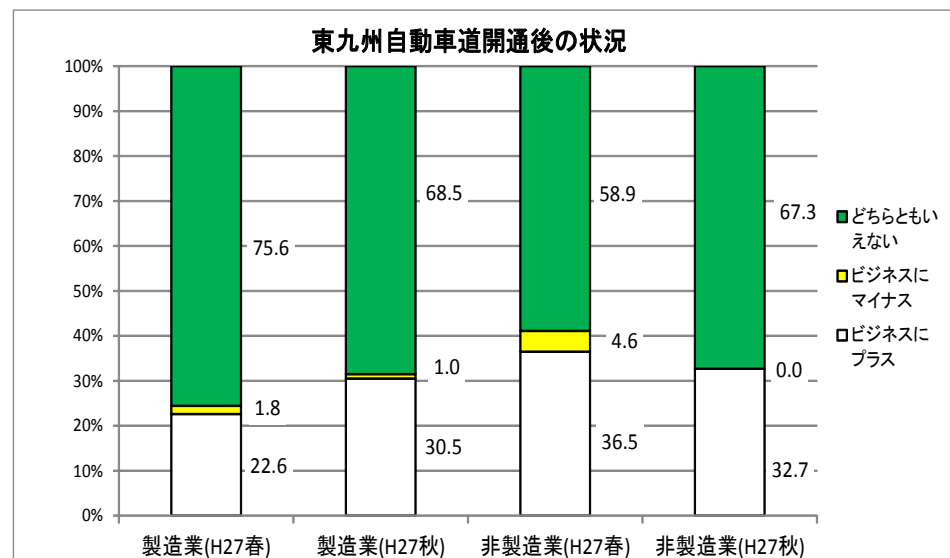
○『計画あり』は製造業、非製造業ともにほぼ横ばいである。

○『計画あり』の内容は、国、県の支援制度を活用した生産設備の導入や、工場の新増設などであった。

V 東九州自動車道開通後の状況について

東九州自動車道開通後の状況（前回は見通し）

	ビジネスにプラス	ビジネスにマイナス	どちらともいえない
製造業(H27春)	22.6	1.8	75.6
製造業(H27秋)	30.5	1.0	68.5
非製造業(H27春)	36.5	4.6	58.9
非製造業(H27秋)	32.7	0.0	67.3



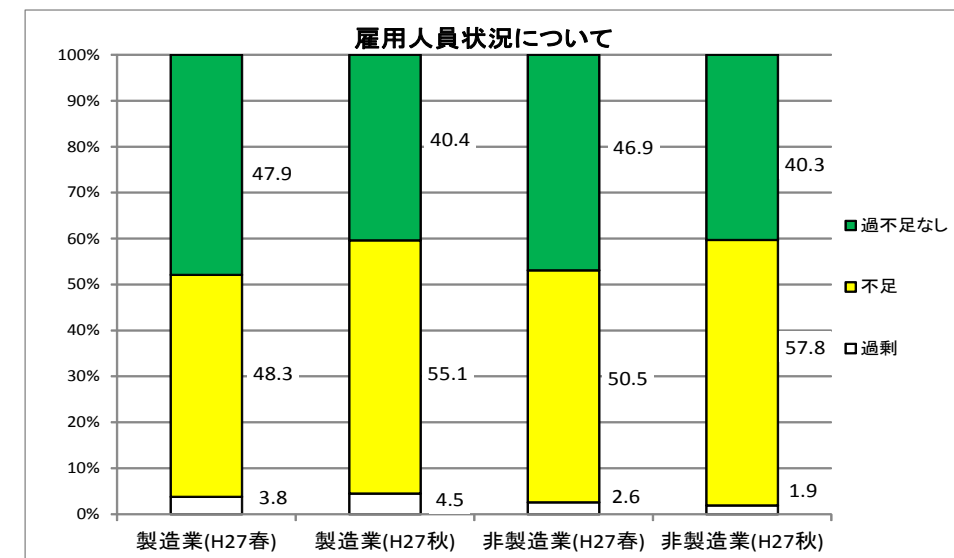
○『ビジネスにプラス』になっていると答えたは企業の割合は、製造業、非製造業ともに約3割となっており、開通前の見通しに近い数字となっている。

○『ビジネスにプラス』の内容は、福岡県内や宮崎県内への営業強化や、宮崎や北九州方面の客の増加などである。

VI 雇用について

雇用人員状況

	過剰	不足	過不足なし
製造業(H27春)	3.8	48.3	47.9
製造業(H27秋)	4.5	55.1	40.4
非製造業(H27春)	2.6	50.5	46.9
非製造業(H27秋)	1.9	57.8	40.3



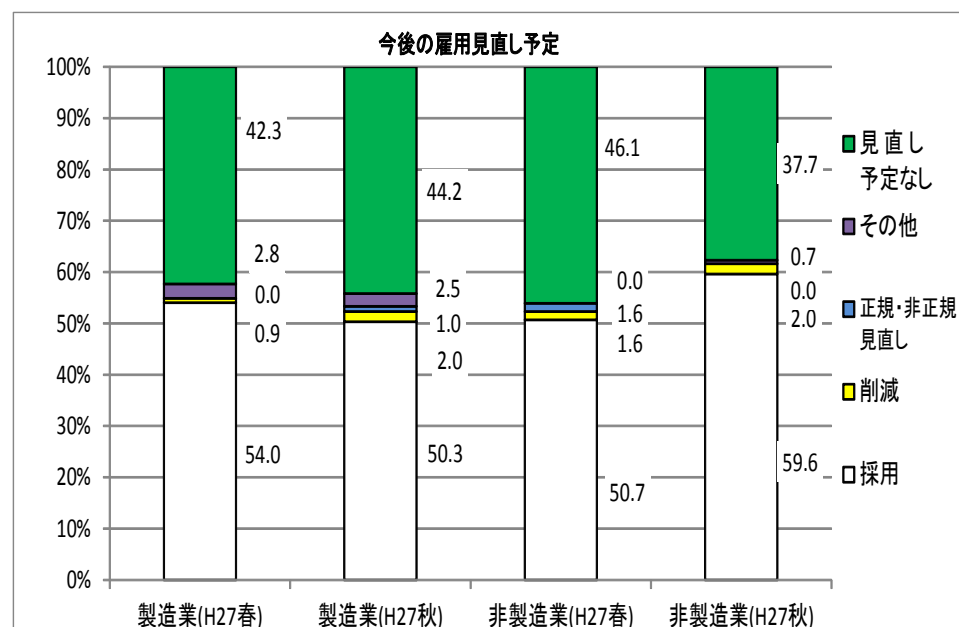
○製造業、非製造業ともに、『過剰』と回答した企業の割合は10%以下であり、『不足』と回答している企業の割合が多かった。

○製造業や通信・情報で、技術人材が不足しているという声が聞かれた。

VI 雇用について（続き）

今後の見直し予定

	見直し予定あり				見直し 予定なし
	採用	削減	正規・非正規 見直し	その他	
製造業(H27春)	54.0	0.9	0.0	2.8	42.3
製造業(H27秋)	50.3	2.0	1.0	2.5	44.2
非製造業(H27春)	50.7	1.6	1.6	0.0	46.1
非製造業(H27秋)	59.6	2.0	0.0	0.7	37.7

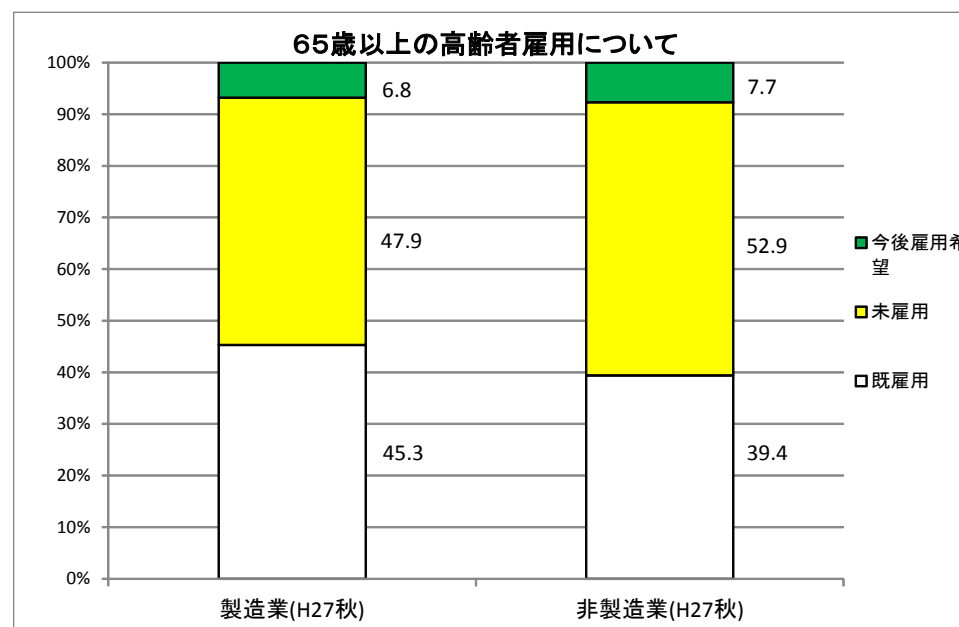


- 製造業、非製造業ともに『予定あり（採用）』と回答した企業の割合が5割を超えており依然高水準である。
- 『予定あり（採用）』と回答した企業の中には、外国人研修生の受入れ拡大や海外大学の新卒者採用を検討している企業もあった。

VII 65歳以上の高齢者雇用について

今後の雇用見直し予定

	既雇用	未雇用	今後雇用希望
製造業(H27秋)	45.3	47.9	6.8
非製造業(H27秋)	39.4	52.9	7.7



- 製造業、非製造業ともに4割前後の企業が既に65歳以上の高齢者を雇用している一方、約半数の企業では未雇用であり、今後雇用したいと答えた企業は1割未満であった。
- 雇用していない理由としては、製造業では体力の不安を、サービス業では、新たな知識の習得をあげる声があった。

VIII 従業員規模別の景況感について

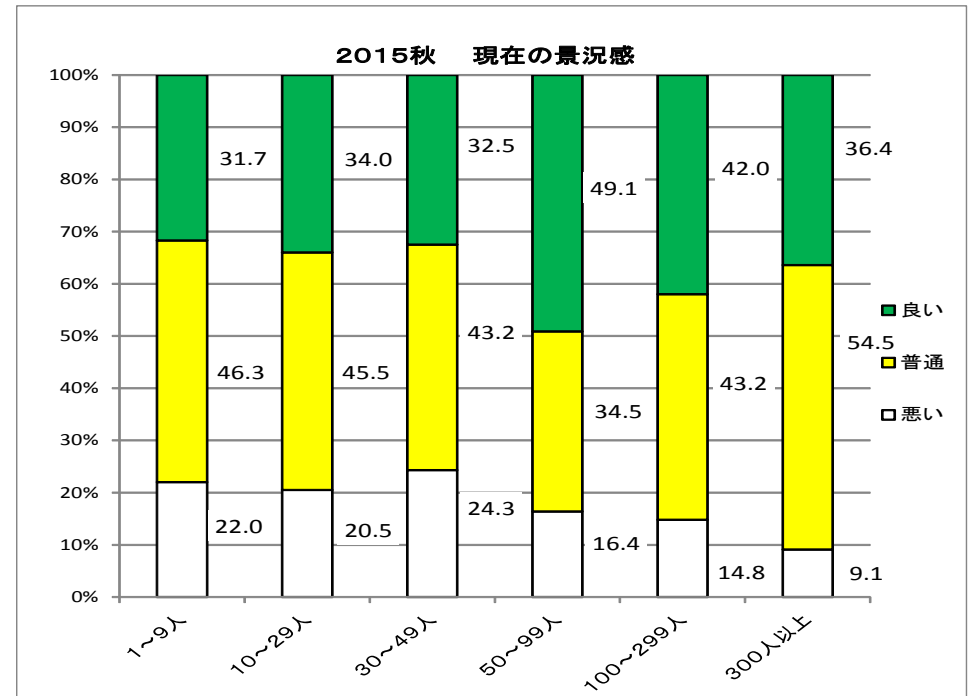
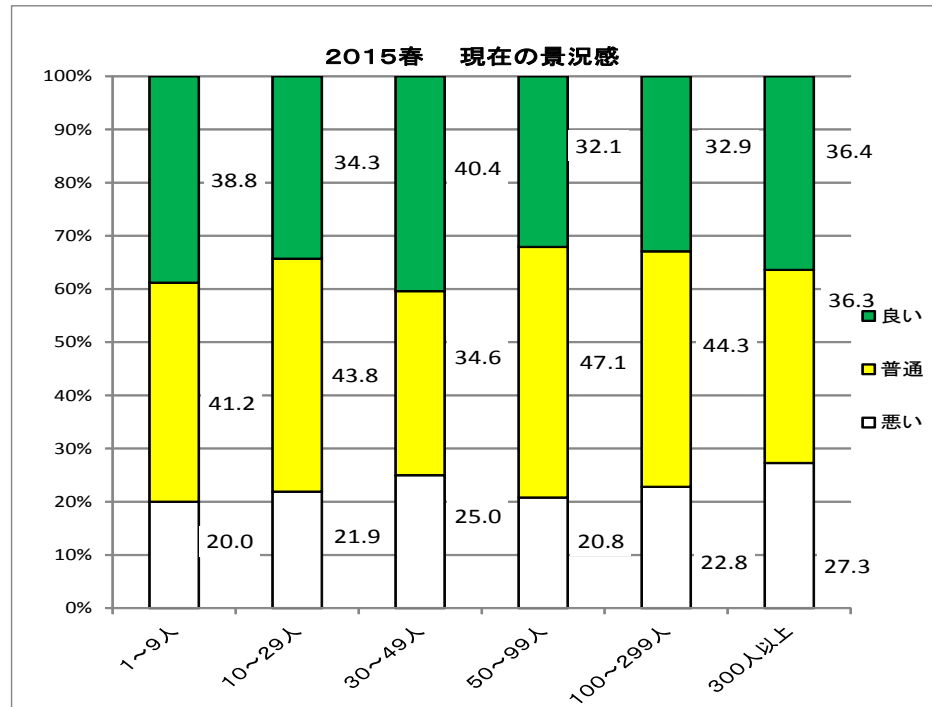
景況感の比較

従業員規模	現在の景況感 (%)					
	2015春			2015秋		
	良い	普通	悪い	良い	普通	悪い
1～9人	38.8	41.2	20.0	31.7	46.3	22.0
10～29人	34.3	43.8	21.9	34.0	45.5	20.5
30～49人	40.4	34.6	25.0	32.5	43.2	24.3
50～99人	32.1	47.1	20.8	49.1	34.5	16.4
100～299人	32.9	44.3	22.8	42.0	43.2	14.8
300人以上	36.4	36.3	27.3	36.4	54.5	9.1

○「1～9人」規模では、「良い」の割合が減少し、「悪い」の割合が増加しており、景況感がやや悪化している。

○「50～99人」、「100～299人」規模では、「良い」と回答する企業の割合が増加している。

○全体的には、春の調査と同様「良い」が「悪い」を上回っている。



参 考（その他企業の声）

【為替の影響】

- 円安により調達コスト増。一方でナフサの安値が続いており、コスト増を相殺している。（化学・石油）
- 会社としては円安にメリットがある。中国への輸出のほか、国内製造業の需要も増える。（鋼鉄・非鉄金属）
- 原材料を中国、韓国から輸入しており、円安の影響が大きい。ただし、中国、韓国の人件費高騰により、国産原料の割合は増えている。（食品加工）

【設備投資計画】

- ものづくり補助金を利用して工作機械を導入し、前工程から仕上げまで一貫した製造を実現する。（木材・木製品）
- 本社工場が手薄な状態であるため、製缶工場を新設し、需要過多に対応させる計画。（金属製品）

【東九州自動車道開通後の見直し】

- 宮崎も営業圏内となっているので、営業の強化につながっている。（窯業・土石）
- 宮崎・鹿児島方面の客が20%程度、北九州方面が10%程度増えている。九州全域から集客できるよう努力したい。（対個人サービス）

【雇用】

- 設計・開発ができるメンバーが欲しい。求人しているが、いい人材が確保できない。（金属製品）
- 今年度、海外の理工系短大生を3名採用した。（一般機械）
- 正規社員が不足しているだけでなく、派遣も人材不足の状況。高齢者雇用は体力的に無理。（輸送機械（自動車））
- 65歳以上の高齢者の中途採用は、業務を覚えることができないのではないか。（その他サービス）
- 昨年度、定年を65歳から70歳に引き上げた。65歳以上は現在10数名いる。産業医の意見を聞きながら健康管理には気を付けてる。（食品加工）
- 包装などの作業現場では熟練工として、店舗では接客技術で、高齢者を戦力として重宝している。（卸・小売）